第 4 回微生物検査実技講習会

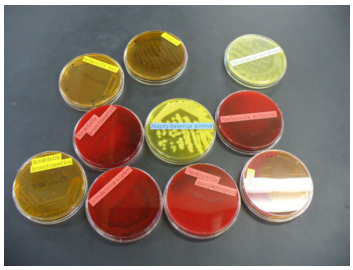
日　時：平成 20 年 2 月 2 日(土)～3 日（日）
場　所：大阪医科大学（大阪府高槻市大学町 2-7）
講　師：後藤 一雄 先生、林元 展人 先生、保田 昌彦 先生((財)実験動物中央研究所)、
森本 純司 先生 （大阪医科大学 実験動物センター)、
小松 俊彦 先生 （バイオメディカルサイエンス研究会専務理事）、支部幹事
参加者: 会員 6 名，非会員 10 名，合計 16 名

プログラム
2 月 2 日（土）

9:00～	受付開始
9:30～11:00	講義：①感染症診断法と実験動物の主要感染症 ②モニタリング検査のための採材法
11:00～12:00	実技：検査材料採取法（マウス）
12:00～13:00	昼休み
13:00～14:30	デモ、実技：検査材料採取法（ウサギ）
14:30～14:45	休憩
14:45～16:15	デモ：感染マウス・ラット解剖所見 実技：ティザー菌感染肝のギムザ染色標本作成と鏡検
16:15～17:00	主要細菌の培地上コロニーの特徴供覧
17:10～18:30	茶話会

２ 月３ 日（日）

9:00～10:00　実技：肺パスツレラの同定法（市販同定キットへの菌接種）
10:00～11:30　講義、実技：血清反応（モニライザへの血清分注）
11:30～12:00　実技：洗浄、酵素標識物の滴下
12:00～13:00　昼休み
13:00～14:00　実技：洗浄、基質発色液の滴下、判定
14:00～14:30　肺パスツレラの同定法（キットの判定）
14:30～15:00　質疑応答
15:00～16:50　バイオセーフティ概論の講義と質疑応答
16:50～　　修了証書授与・閉会挨拶



第 4 回微生物検査実技講習会を受講して

藤田保健衛生大学・疾患モデル教育研究センター
羽根田千江美

他支部からながら、前週にあった高度技術講習会に続いて微生物モニタリングにも参加させていただいた。２週続けて週末家を留守にすることになるのでかなり迷ったが、お子様が、「いいじゃん、行ってこれば。お母さん行きたいんでしょ。」と送り出してくれたので参加する事を決めた。今回参加しようと思ったのは、現在一緒にモニタリングを実施している教員が４月から移動になることが決まっており、今は試験的に行っている肺パスツレラや蟯虫検査も含め、今後を任せてもらえるようにこの機会にモニタリングの技術をしっかり学んでおこうと考えたからである。

講習会は充実しており、他の参加者の方と楽しく学ぶ事ができた。こういう会に参加するたびに顔見知りが増える事は、出かけることの楽しみの一つだと思う。また今回は、「バイオセーフティ概論」の講義も加わり、意識の再確認をすることができた。しかし全般にどちらかといったら基礎的な内容だったので、意気込んでいった（？）私には少々物足りなく感じた。もちろん、今までいい加減にやっていた事、間違っていた事、知らなかった事がたくさんクリアできて大変よかったが、パスツレラなどの日常的に検出される病気こそもっとしっかり学びたかったように思う。重篤な病気を観察できる機会は滅多にないので、その点は有意義であったが、比較的見られやすい病気こそ見逃さないような基礎を習得できるとよかった。特に培地のコロニーの性状（形状）など、もっと徹底して学びたかったというのは私の勝手な思いかもしれないが、可能であれば受講者に内容（学びたい事）の希望を取ったり、レベル別の講習会が行われるとよりニーズにあった講習会になると思う。とはいえ実際に開催するのは大変な労力であるので、今後は関西支部だけでなく、各支部で特色のある講習会、研修会を開催して、各支部同士の交流も含め多方面からの参加ができるようになるといいと思った。しかし、本当に関西支部はいつもパワフルで、かつ、エネルギッシュな方が多くて感心する。また、今回ご指導いただいた実中研の先生方にも心から感謝したい。

おまけながらお嬢に描いてもらいました→

第 4 回微生物検査実技講習会を受講して

国立大学法人大阪大学医学部附属動物実験施設
愛原 勝巳

我々の施設は、獣医師、薬剤師、実験動物技術者、臨床検査技師、事務管理職員が業務に携わっています。私は、臨床検査技師・細胞検査士で動物実験の業務経験は５年目になります。近年、動物愛護法の改正に伴い、動物実験規定が改正、作業管理マニュアル、作業手順書等が制定されました。一方、品質保証が重要視され、ＧＬＰやＩＳＯ15189 認証が注目されています。作業環境が大きく変化する中、実験動物業務におけるコンプライアンスを意識し受講いたしました。

自然発症腫瘍に関する講義では、多くの症例（スライド）を準備され、特にウィルス感染による腫瘍発生の研究は、電顕像も含め大変興味深く拝見しました。

微生物検査講義・実技講義では、熟練された手技、検査目的に沿った合理的なサンプリング処理に感心しました。その中で、深麻酔下での開腹、脱血処分は合理的な手技ですが。蘇生させる計画の無い場合は、完全な安楽死後、採血を行いその後、開腹した方が良いと思いました。主要感染症講義では、様々な感染症所見を見聞出来大変良い経験となりました。今回の講習会では、従来からの検査法が主であり、陽性検体の確認検査は明確でありましたが、陰性結果を保証する方法等は盛り込まれていませんでした。また検査材料の採材から検査工程、結果判定までの、精度管理についての取り組みも期待していましたが、限られた時間でもあり聞く事が出来ませんでした。実験動物においても、微生物検査法の標準化は必ず要求されることでしょう。次回はそれをクリヤー出来る新しい検査法の検討や従来法との比較、また、これからの方向性なども講習内容に含められる事を期待して望みます。

バイオセーフティの講義では、病原微生物を取り扱うプロとしての基本手技の重大さ。アクシデントやインシデントの対処法ではハード・ソフト面を詳しく解説して頂きました。またＭＲＳＡの対処法や２種病原体に分類される事など興味深く拝聴しました。

最後に、第 4 回微生物検査実技講習会を受講出来ました事を、皆様に感謝し、この経験を今後の実務の励みといたします。

微生物検査実技講習会を終えて

財団法人 実験動物中央研究所　ICLAS モニタリングセンター
保田 昌彦

このたび実技講習会の講師としてお招きいただきましてありがとうございました。ICLAS モニタリングセンターは、こうした講習会が実験動物の微生物モニタリングの普及に役立つと考えており、私自身が今回の参加を大変楽しみにしておりました。

さて、この会は大阪という土地柄か、受講者の中には日頃から製薬企業内の検疫をご担当されている方が多く、受講生の方々が日頃の業務中に抱えていたと思われる細かい疑問点を我々に投げかけて来てくださり、どこよりも受講生の講習への臨み方が良い意味で貪欲と申しますか、真剣だったと感じました。また日頃は飼育管理をご担当されている受講生の方々は、実験動物の異常所見例や管理動物が異常を来した場合の対処方法などを熱心に尋ねて来られ、これまた良い意味で貪欲であり、責任感の強さを感じました。おかげさまで我々は教えると同時に様々なことを教わりました。ありがとうございました。

私の反省点としましては、せっかくこのように様々な専門家が受講されていたにも関わらず、貪欲に話しかけることが出来なかったことです。もったいないことをいたしました。そして余談ですが、私は関東に出て十年以上になる近畿人（和歌山県出身）ですが、本会以降、私の言葉は標準語から関西弁に大きくシフトしておりますし、エスカレーターもどちらに立つやら迷っている日常です。

最後になりましたが、関西支部事務局の皆様方にはいろいろとお世話になりまして、誠にありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。